

令和7年度第6回 感染症発生動向調査協議会

議事概要

1 日 時 令和7年9月17日（水） 14：00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員：馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）
川本 典生（岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授）
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）
加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 院長）
高橋 義人（岐阜県総合医療センター 中央検査部部長 兼 臨床検査科部長）
事務局：松尾 孝和（感染症対策推進課 感染症対策監）
酢谷 奈津（感染症対策推進課 感染症対策係長）
松岡 真史（感染症対策推進課 技術主査）
村瀬 真子（保健環境研究所 所長 兼 疫学情報部長）
吉田 菜穂（保健環境研究所 専門研究員）

4 議 題 （進行：馬場委員）

- （1）前月の感染症発生動向について
- （2）検討すべき課題について
- （3）情報提供すべき事項について
- （4）その他（感染症対策推進課から）

5 議事概要

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
月番委員のコメントについては資料のとおり。
- ・（委員から）昨年度よりレジオネラ症の発生が多い傾向があります。この時期は、河川など水系からの感染や、空調関係、建設業など粉塵を介した感染が多いということが分かっています。職業別の啓発も検討するといいかもかもしれません。

【検討すべき課題について】

○急性呼吸器感染症（ARI）の指標としての意義・解釈について

- ・（委員より）コロナはお盆明けに多かった印象がありますが、ARI のデータではほぼ横ばいです。コロナの感染者について、ARI の定義を満たしていればARI としても報告するルールになっていると思いますが、医療機関へ改めて確認することもあるかもしれません。
- ・（委員より）これからインフルエンザ、コロナの流行期を迎えるので、どのような動向になるのか注目しながら、ベースラインのデータの正確性についても見ていくのがよいと思います。

○病原体検出情報のフィードバックや発信のあり方について

- ・（委員より）たとえば同じ RS ウイルスであっても、病原体検出情報として上がってくるものと、定点報告として上がってくるものでは質が異なると思います。病原体の検出情報は、似たような症状の中で、その時点でどんな疾患が流行しているのかという指標になると思いますので、多くの医療機関や一般の方により有効に発信していけるとよいと思います。
- ・（委員より）検体の検出情報と併せて、通常時の検出率がどれくらいかということも重要だと思います。既知の病原体以外のものが急に流行するような場合は、感染症の症状があるにも関わらず既存の方法では検出できない検体が増えてくる可能性があるので、平時のベースとなるデータを持っていた方がよいと思います。
- ・（事務局より）他の自治体のHPなどでも、検出率を掲載しているところがあります。岐阜県でも分かりやすい形で公開していきたいと思います。

○結核・呼吸器感染症予防週間に関するかわら版について

- ・（事務局より）かわら版を発行して啓発を行う予定です。
- ・（委員より）また冬場に向けて、インフルエンザを含む急性呼吸器感染症や高齢者向けの啓発もしていけるとよいと思います。
- ・（委員より）若い人向けの啓発として、SNSの利用を検討するとよいのではないのでしょうか。特に若い女性はInstagramの利用が大変多いようです。HPにアクセスするのは比較的年齢の高い世代の方で、若い方はXやInstagramから情報を得ている方が多いと言われています。
- ・（事務局より）県の公式LINEがありますので、できることもあると思います。
- ・（委員より）コロナ中にもいろいろな手段を検討しましたが、情報発信はとても重要だと思います。色々と検討していくとよいのではないのでしょうか。

○結核について

- ・（委員より）海外から若い人が労働力として入ってきているのが影響していると思いますので、啓発を強化していかないといけないと思います。
- ・（感染症対策推進課より）海外の先進国でも、外国人の結核患者の割合が多いというデータがあります。
- ・（委員より）従来の結核対策はある程度成功しており国内での発生は減っていますが、外国人の労働者を入れざるを得ない以上、ある程度の数の患者の発生は続くのではないかと思います。